

われもこつ 第41号

2020年 5月 8日 発行

Q* 野の花を増やす会「われもこつ」の会「原っぱ作業、持ち物に「園芸道具」を揃えたい、何を持っていけばいいの？」

A*

原っぱではヒメジョオンや西洋タンポポなどの外来種やイネ科の雑草を刈り込んだり、引っこ抜いたり、おうちにある草取り道具をお持ち下さい。

庭仕事に縁のなかった人はホームセンターで
途方に暮れるかもしれませんね。

Q* いろんなカタチの鎌がある！どれを選んだらいいの？

A*

初めて買う人におすすめは、ノコギリ刃の鎌。
扱いやすく、初心者向けです。

二本目はねじり鎌。根を土ごと掘り起こして草取りします。

この春、庭いじりを始めてみようかな...という方には

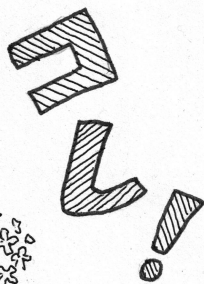
よく迷子になりますので...

地味色の柄には
赤いビニルテープを
巻いて紛失防止
して下さい。

左利き用
も、あります



迷ったら



地元愛で庭づくり 行田 治夫・慶子・・・p.2

追分節 その歴史と保存・継承 依田 功・・・p.4

初めての庭仕事におすすめの道具あれこれ、アドバイス・・・p.5

会員の声・・・p.6

軽井沢町役場に勤めている時、1970年に家を新築して現在地(塩沢)に移り住みました。

実家の畑だった場所ですが、建設

会社が使っていたので、土質は

よくありませんでした。当

時はテニスブームで周り

一帯はテニスコートだら

け。ボールが飛んできた

り、境界のフェンスが

見えたり(鶏小屋の中

にいるみたいでした)

…と景観的に好ま

しいものではありません。

そこで目隠し

として敷地周囲に樹

木を植えました。また、

春先に地面が融けてぬか

るんで大変なので、草花

を植えました。これが私た

ちの庭造りの始まりです。

当初は仕事と庭造りの二足の

草鞋を履いていましたが、退職と同

時にサンデー毎日生活が始まり、庭の大改造に

取り組むことにしました。東屋を古民家の廃材

を利用して作り直しました。引越した時は井戸を

利用していましたが、上水道が普及すると、井

戸を活用して防火用水を兼ねた池を作り

ました。全て私たちだけでやりました。

植えた樹木はほとんどが現役時代に仕

事で知り合った多くの人たちから

無償で譲り受けたものです。工事

現場で切られそうになったシャ

クナゲを貰い受けたら、山の

持ち主が邪魔なのでムラサキ

ツツジを刈り取っているのを

見て、持ち主にお願ひして譲

り受けました。植物園にある

ムラサキツツジはこのように

して我々が運んだものです。

元々ゴルフ好きだったので、

芝生を植えることは最初から

計画していました。芝生に適した

土壌は水はけが良いことが条件なの

で、火山灰を深さ30センチほど入れま

した。芝苗は別荘工事が出た残り芝を

もらってきました。ボロボロになった芝苗を

バラバラにして植えました。夏は3日ごとに芝

雑草庭になります。芝は刈れば刈るほど丈夫に

なるので、芝刈りを一生懸命やるのが大切で

す。なので、芝刈りができない人は芝生を植え

てはいけません。芝生の葉色が落ちて元気がな

くなると肥料を与えます。晴れた日に施肥する

と葉っぱが焼けてしまうので、雨が降っている

時に行います。肥料は均等に撒くことが重要な

ので、散粒器を用いています。芝刈機はエンジ

ン式を使っています。電動式はケーブルが邪魔

になって、芝刈作業が億劫になるので、使わな

い方が良いです。芝刈は最低でも週1回は必要

です。芝は花を咲かせてはいけません。芝は野

芝がおすすです。野芝は軽井沢に自生してい

る種ですが、日当たりが悪いと育ちません。日

陰がある場合は洋芝になります。洋芝は成長

が早く、夏場は毎日芝刈りが必要です。洋芝は

殺菌剤散布も必須ですが、野芝の場合は不要で

す。芝は人が歩いて踏んづけた方が丈夫になる

ので、ジャンジャン芝生に入ってください。た

だし、ペットが「落し物」をすると、そこだけ

枯れるので、ペットはご遠慮願っています。

草花は軽井沢に自生していた山野草を中心に

植えています。私たちの庭では、湿地を好む

植物は育ちにくいようです。(次ページ左) 山野

Gyohda Garden 地で愛で 庭づくり 行田治夫・慶子

庭の山野草たち

アサマキスゲ、アズマイチゲ、ウツギ、オミナエシ、カタクリ、クリソウ、サクラソウ、サラシナショウマ、シモツケソウ、シロバナエンレイソウ、マツムシソウ、ミズヒキ、ミソハギ、ヤマブキノソウ、レンゲショウマ、ワレモコウ、などなど

<うまく育たなかった山野草>
アツモリソウ、オキナグサ、シラネアオイ、トリカブト、ルリソウ、などなど

草にこだわっているわけではなく、園芸種も植えています。(ヒヤクニチソウ、センニチコ) 園芸種の花は色鮮やかなものが多く、庭を華やかにしてくれます。

樹木や草花を地植えする時、基本的には土の入れ替えや元肥を施すことはしません。ただし、鉢植えで育てる場合は培養土を使わないと元気に育ちません。コマクサやサボテン類も地植えしていますが、これらだけはそれぞれにふさわしい土を作って植えました。肥料を与える必要はありません。ただし、その草花にあった土壌・日当たりの場所に植えることが肝要です。草刈りは鎌で丁寧に行うのが良いです。

山野草の種は採取直後、プランタに蒔いていきます。種は保存しておく、発芽率が大きく低下します。地面に蒔くと、発芽してきた芽が山野草かどうかを見極めるのが難しいです。

樹木の剪定や植え替えは4月以降梅雨明けまでに行えば、特に問題はありません。秋に作業すると枯れます。切り口から寒さが入るからだと思います。樹木の剪定としては、風通しをよくするために枝が立て込んだところや邪魔な枝を切り取るだけです。毎年、4月になると、庭に出て木と会話して、必要なら木を移動させます。植える樹木は軽井沢の風土・土壌にあつたものが良いです。ヤマボウシ、カエデ、スモモ、イチイなどを植えています。中でもカエデはお気に入り、7種11本のカエデを植えて「かえでの小径」を作りました。ハウチワカエデは軽井沢に自生している種で、紅葉時期が早いという特徴があります。ツバキ、ハナミズキ、サザンカ、エニシダなどは軽井沢ではよく育ちません。アカシアは植えるとアカシアだらけになるので、別の意味でダメです。モミの木は他の木の成長を阻害するのでよくありません。カシワは冬になつても葉が落ちないので、冬風でザワザワ音がして嫌がる人もいますが、「貸しはあつても借りはない」と言つて、昔から植えている家もあります。ホオノキは可愛い花を咲かせますが、葉っぱが大きいので取り除く作業が大変です。落ち葉はそのままにしても問題は

ありません。落ち葉をそのままにしておく、草花の種が地面に届かないのでは、と心配するかも知れませんが、雨などで流れて種は地面に達するので心配御無用です。また、場所が許せば、落ち葉を集めて腐葉土にするのもオススメです。その際、石灰窒素を撒いておくとも良いです。

庭はオープンガーデンとして開放しています。観光協会から請われて始めました。近頃では「もうそろそろやめようかなあ」と思つたりしますが、毎年、季節を変えて遠くから来られる人たちがいるので、もう少し頑張るつもりです。皆様も季節を変えて見に来てください。

最後にメの一句を披露いたします。

夫居りて 日曜日かと錯覚す
つよを

未だ馴染まぬ 夫の定年
いよ

【編集室注】

(1)本稿は行田夫妻からお伺いしたお話を編集室で文章化しました。文責は編集室にあります。
(2)行田邸の庭についてはTV番組「素敵にガーデニングライフ」(NHK BS2 2008/11/30)で放映されました。また、雑誌「マイガーデン」(マルモ出版 No. 94, 2020)でも紹介されています。



追分節

軽井沢追分郵便局
局長 依田 功
その歴史と保存・継承

追分節は、中山道追分宿で発祥し、三百年以上にわたり唄い継がれてきた民謡です。群馬県の坂本宿から碓氷峠を越え、追分宿あたりを往來していた馬子たちが、馬を引きながら唄っていた仕事唄（馬子唄）が、追分宿のお座敷に上がり唄われるようになりました。

追分節には、追分宿の脇本陣油屋に伝承された「追分馬子唄」と油屋に次ぐ大旅籠永楽屋に伝承された「信濃追分」があります。油屋に伝承された追分馬子唄は、宿場のお座敷に上がり、三味線を付けて唄われ、「馬子唄調追分節」が生まれましたが、ゆったりと唄う馬子唄には、三味線はなかなか合わず、のちに三味線を外し、馬のひづめの擬音と、馬蹄をつけた唄に熟成されました。一方、永楽屋に伝承された信濃追分は、二上がり、三下がり、本調子など三味線を創意工夫し、賑やかなお囃子・太鼓・踊りをつけた「お座敷唄調追分節」に完成されました。

中山道追分宿を中心に、多くの人たちに愛唱されていたという事で、いずれも「追分節」と

名付けられ、旅人や商人たちにより、佐久地方をはじめ、中山道等街道沿いに全国各地に伝わっていき、越後に伝わり越後追分、さらには北海道と関西を結ぶ西回り航路の北前船によつて、その寄港地に伝えられ、北は北海道の江差追分、秋田県の本荘追分、西は島根県の出雲追分、吉岐追分に至るまで、「追分節」と呼ばれる唄が数多く生まれました。

今では日本の民謡を代表する一大系統を形成していますが、もとはと言えば中山道追分宿の唄と言う意味で、追分節と呼ばれていた訳です。大正時代末期までは、単に追分節と称していましたが、全国各地の「追分節」と区別するために、「馬子唄調追分節」を「信濃追分」と名付けられました。

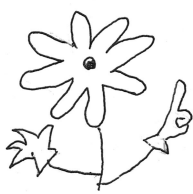
追分節保存会ではそれぞれ二つの唄の保存と継承及び普及活動に励んでいます。昭和五十六年頃より、保存会としての活動を開始し、会員は現在二十六名、それぞれ月二回程度の練習日を設け、出演依頼があつた際などには、臨時で練習をしたりします。

また、追分節を唄い継ぐ後継者育成のために、平成十四年より軽井沢町教育委員会追分宿郷土

館の募集により、「少年少女追分節隊」（現在は「追分節隊」に改名）が結成され、追分節保存会が指導にあたり、月二回の割合で練習に励んでいます。最近では「追分節隊員」がよく育つてきており、やがては保存会の方へ移り、活躍していってくださるであろうと、若い世代への継承が期待されています。

また、追分には「しなの追分馬子唄道中」というお祭りがあり、毎年七月の第四日曜日に賑やかに開催されています。このお祭りは、江戸時代の旅姿を再現したもので、武士や代官を乗せた馬を、馬子に扮した保存会員が馬子唄を唄いながら引いて宿内を練り歩きます。花嫁花婿や武家娘・町娘・村娘・旅の女・瓦版・飛脚・金魚売り・行商人・神官・水戸黄門・弥次さん喜多さん・大道芸人など、五十人を超える役者が出演します。地域活性化と地元の民謡「追分節」を広めたい、子供たちに夢を与えたい、などの願いを込めて始まったお祭りで、今年で三十五回目を迎えます。

ここ追分が全国に伝わる追分節の発祥の地であり、全国の追分節の元唄であるという由緒ある歴史を誇りとし、大切に保存・継承していきたいと強く思うところがあります。



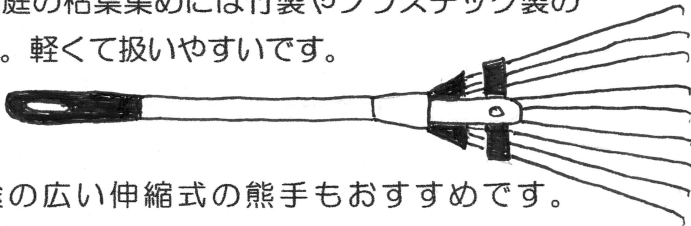
迷ったら
コレ!

初めての庭仕事におすすめの

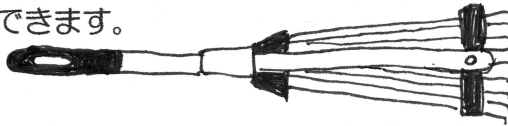
道具あれこれ、アドバイス。

【熊手】

広い庭の枯葉集めには竹製やプラスチック製の熊手。軽くて扱いやすいです。



用途の広い伸縮式の熊手もお勧めです。狭いところも広い庭もこれ1本でゴミ集め。コンパクトに収納できます。



大は小を
かねない!

【手箕 (てみ)】

草取りや落ち葉掃きをした時、ゴミを集めるための道具。

軽井沢町の燃えるゴミ袋(大)に落ち葉を「詰め込む」には小さめの物、「たくさん集めて、運ぶ」を重視するなら大きい物を選んで下さい。



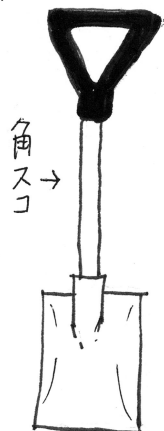
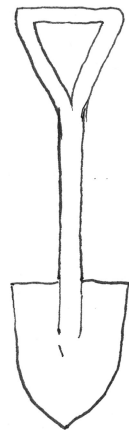
【シャベル】

穴を掘ったり、根を掘り起こしたりするのに必要なのは先がとがったシャベル。金属パイプ柄で小ぶりなほうが少ない力で作業できます。オールステンレス製ならお手入れもらくで長持ちします。



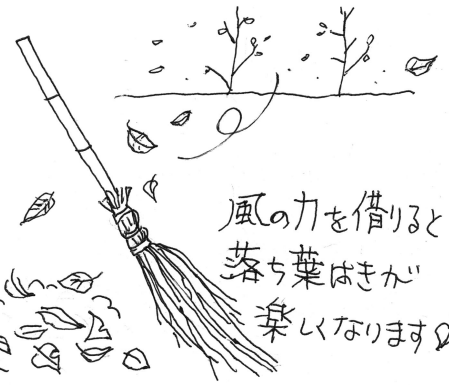
スコップとシャベルの呼び方

剣先スコップとも呼ばれます。略して剣スコ。柄はカッソイびき...



角スコ

角型スコップはすぐ倒運んだり。雪かき(とくに重たい雪)にも役立ちます。



【竹帚 (たけぼうき)】

庭掃除の定番ですが、あまり重いと仕事がかどりません。買う時は手に取って確かめて!

【手帚 (てぼうき)】

柄の無い竹製のほうきですが、普通の竹ぼうきより細い部分で作られていてやわらかです。大事な苔庭や芝生の掃き掃除に おすすめ。

【草刈り機】

扱いやすいのは充電式。エンジン式(専用の混合ガソリンを使います)に比べかなり静かに作業ができます。その分、パワーは物足りないけれど、軽いのであまり疲れません。一般的な製品では20分くらいで充電が切れますが、ある程度の面積、草刈りできます。

バッテリーを2個用意しておけば、1つめが充電切れした後も作業を続けられます。また他の充電式の道具類(芝生バリカンやブロワーなど)やインパクトドライバー、サンダーといった電動工具と共用できる物を選んでおけば、少しずつ買い足していくこともできますね。

広い面積、硬い草や藪を刈り込むにはエンジン式の方が向いていますが、重たくてうるさいのが欠点です。体力に自信のない方にはお勧めしません。

服装も重要



あなたはどっち派?

スコップ(Schop)はオランダ語由来、シャベル(Shovel)は英語由来で、もともと同義語です。地域によって足をかけて使う大きな方をスコップ、しゃがんで使う小さな方をシャベル、またはその逆で呼び分けることもあります。JIS規格では大きさに関係なく、足をかけられるものが「ショベル」だそうです。つまりいろんな人がいる軽井沢ではどっちがどっちでも通じます。

山野草

ポット苗から育てる

5月の下旬に社会福祉協議会が主催する「ちいき活動みほん市」が中央公民館で開催されます。40以上のボランティア団体が活動を紹介するイベントです。私達「われもこの会」も会の紹介と共に山野草の苗を配布いたします。この見本市までにごのように沢山のポット苗を揃えるか（他の会員の方もいろいろな苗を持ち寄りますが…）我が家のポット苗の作り方のお話をします。

まず我が家の庭は湿地なのです。山野草の花が咲き、種が付き、それがこぼれると湿地に合った山野草の種は必ずと言っていいほど翌年芽が出ます。花が咲く場所は浅間石で囲み、歩くところはオオバコなどの雑草が生えないよう防草シートを敷き、その上に貯木場からもらってきたチップを敷いています。毎年春に新しいチップを敷く事を続けていると3〜4年でチップの厚みが10センチ位になり、種にとって丁度良い土壌になります。このようにしてできた土壌は、浅間石で囲った場所に撒きます。

山野草は芽が出てから3〜4年経たないと花をつけません。ですから種がこぼれて芽が出た苗を浅間石の囲みの中やチップの中からすくい上げ、プランターに入れて2年ほど育てます。エイザンスミレなどは砕石の中でもこぼれ種から芽を出します。それらを4月下旬よりポットに移し入れ、1ヶ月以上ポットの中で落ち着かせます。するとみほん市の頃にクリンソウ、ウマノアシガタ、エイザンスミレなど花芽があがるもの、花を咲かせるものもあり賑やかな花屋さんのようになります。

ポット苗を手に入れて家に持ち帰ったら、なるべく早く地植えして下さい。地面に穴を掘り、穴の中に水をたっぷり入れ、ポットから出した苗を植えて下さい。

山野草は自然の山に生えている植物なので土は腐葉土などが好ましいと思います。腐葉土は自分で作るのがベストですが、作れない場合は園芸店などで販売されているものでも良いと思います。地植えする時間の無いときはポットを

日陰に置き、上が乾いたら水をあげ、なるべく早く地植えして下さい。



水やりは地面の乾き具合を見て朝か夕方につつぷりあげるのが良いと思います。

山野草は周囲環境や土壌を選びます。これが合っていないと育てるのは困難です。逆に言うと、合っていれば、それほど手間をかけずに庭を山野草で満たすことができます。ですから自分の庭の環境と土壌にあった山野草を選ぶことが肝心です。みほん市に連れて来られてポット苗を手する場合、どの種類の山野草が自分の庭の環境に合っているのか、会員に尋ねてから入手されることを強くおすすめします。また、山野草を鉢植えで育てるのは、初心者にはかなり難易度が高いとお考えください。

「ちいき活動みほん市」の開催日も年によっていろいろですが、植物の状態が丁度良い時に山野草愛好家の手に渡ることが出来れば理想的です。

今年もまた多くの家の庭に山野草が咲き、高原の美しい町になるようお手伝いが出来れば「われもこの会」として嬉しい限りです。

【H.Y.】

中部小学校自然クラブに参加して

昨年度の自然クラブは「みんなで楽しく軽井沢の自然を知ろう」をテーマに4年生から6年生まで20名、回数は学校の授業数の都合で前年度より2回少なく5回となり、5月より11月の間で行われました。

前年度は6年生が多く、男子が目立つたのですが、今回は4年生3名、5年生13名、6年生4名で女子が多かったからか、落ち着いた雰囲気だったように思います。内容は蝶・昆虫の専門家である栗岩先生が準備し、私達われもこの会のメンバー4名はクラブ外部講師として補助する役目。私はまだ2年目で、今年は何に出会えるのか楽しみに参加したのです。

1回目はクラブ発足の顔合わせで自己紹介・予定等が話され、次回より3回はバスで校外に出掛けて自然に触れる、最後はまとめ、という予定でしたが、天候に恵まれず変更を余儀なくされる事がありました。それでも1回は離山に入り、ルリソウが見られる時期で、他にも木々や野の花を見つけ、子供達の記録にもルリソウが多く描かれていました。

2回目は発地の休耕地を歩く予定でしたが、

雨模様で変更、風越の自然園見学になりました。

3回目は大きな台風の後だったので、我々が子供の頃から経験した台風・水害の事を子供達に伝える時間があり、その後、校庭の砂場で浅間山の造山活動について学ぶ経験をしました。各自がスコップをもち、大きな山をつくり、崩し、1年以上前に起こったであろう火山活動に思い巡らしたのです。全部が浅間山かと思っていた私は目から鱗、とても興味深い体験ができて、今でも山を見るたびに思い出しています。

最後は栗岩先生の指導で昆虫・植物の標本を仕上げ、名前を自分たちで調べ完成させました。回数も少なくなり、天気心配をしながらの5回でしたが、栗岩先生の下見など準備のご苦労に感謝し、子供達と出会い関わられた事にも感謝しています。

新しい年度、クラブの時間が取れるのか心配ですが、自然を学ぶ大切なこの時間が少なくならない事を願うばかりです。【S.O.】

我が庭をもとの姿に

一昨年の12月に東京から軽井沢の隣、御代田町に移り住みました。もとは森だった土地に建

てた我が家の庭にはコナラの木がたくさん残っています。越してきた当時、低木や草が刈られていて、庭はコナラだけが立ち並ぶ、落ち葉に覆われた寒々しい林でした。

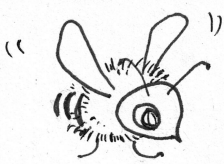
長い冬の後、ようやく訪れた春。寒さが残る中、庭の探索を開始しました。落ち葉の間から種々の草が顔を出し、あちこちの地面や切り株から若木がニョキニョキと生えています。庭を見た植木屋さんの「レンゲツツジがたくさん咲いてたんだね」の言葉に、ここはもともと山の一部だったんだ！とはっとした都会育ちの私。ということは、草の芽はおそらく山野草。庭の元の姿を知りたいと、ウェブや本で草木を懸命に調べるも全くわからない。モヤモヤする私に光が差したのは、追分コロニーでわれもこの会の会報誌を見つけた時でした。

この地で自力で生きてきた野の花の居場所づくりという会の趣旨に、この活動を通して我が家の庭を少しでも元の姿に戻せるかも、人間の都合で奪った草木の住処をわずかも返せるかも、という想いで入会しました。その「野望」を胸に秘めつつ、まずは山野草のいるはから皆さんから教えていただき楽しんでいきます。

【H.I.】

会員の声



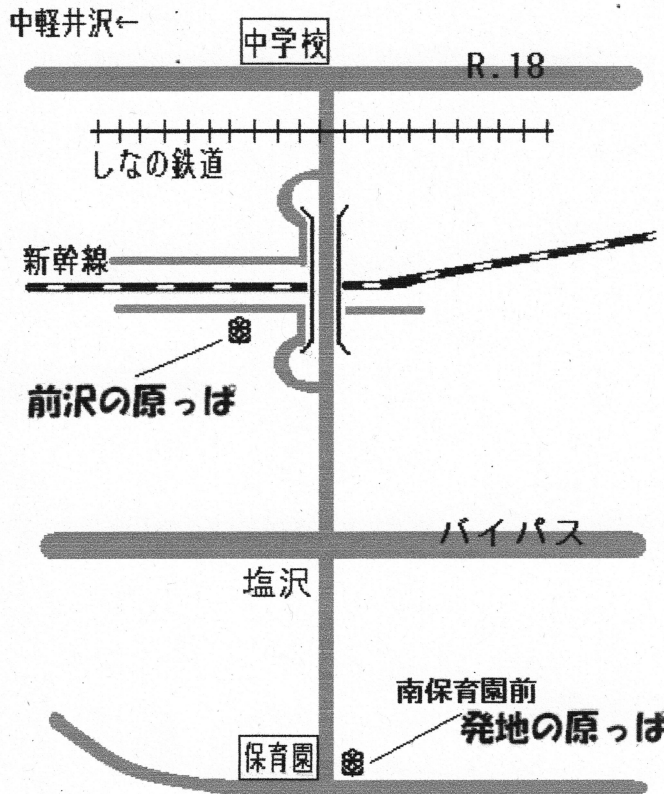


原っぱで会えたらいいね！



2020年の予定

- 5月 20日(水)
- 6月 7日(日)
- 17日(水)
- 28日(日)
- 7月 8日(水)
- 19日(日)
- 29日(水)
- 8月 2日(日)
- 26日(水)
- 9月 13日(日)
- 30日(水)
- 10月 11日(日)
- 21日(水)
- 11月 8日(日)



▶雨天中止

小雨の場合決行することもあります

▶持ち物：園芸用手袋

スコップや草刈り鎌

日除けの帽子、長靴

水筒（熱中症予防に）



今年は諸事情により
変更・中止になること
もあります

▶日曜日は **発地の原っぱ**

▶水曜日は **前沢の原っぱ**

午後1時30分 集合

◆◆◆ 会員募集中 ◆◆◆

入会ご希望の方、見学お待ちしております！

年会費 1,000 円

ご家族で入会する場合、2人めから 500 円



活動に参加して
ルイガ券をもらう
↓
ルイガ券でお買物して
町を元気にしよう！

われもこうの会は地域通貨「ルイザ」のサポート会員です

* * * 編集後記 * * *

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るっています。感染者数 370 万人、死亡者数 25 万人を超え (5/7 時点)、収まる気配が見えません。日本でも緊急事態宣言が発令され、今年の大型連休は「ステイホーム週間」となりました。これに呼応して、今年は制作に参加する会員間の「最接近遭遇」を避ける新たな手順で会報誌を制作しました。来年の今頃には、この騒ぎが終息して、例年通り、センベイを頬張りダベリングしながら制作する「正常な」作業に戻れることを願うばかりです。 (編集長 T.H.)